

百尺竿頭

ひゃく しゃく がん とう



札幌市青少年山の家だより

第39号

平成25年(2013年)10月1日発行

札幌市青少年山の家

指導員 竹内 康 暁

「火のありがたさ」

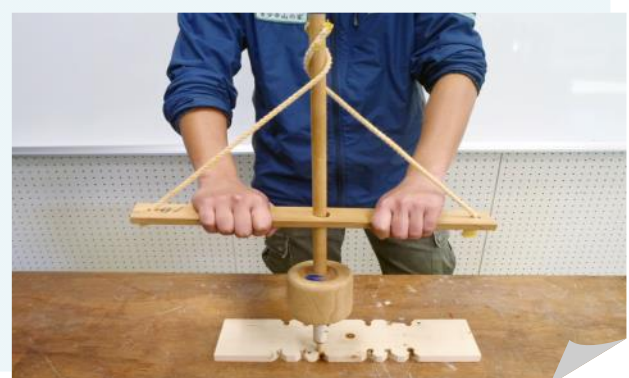
木々の葉が色づき始め、朝晩の気温が下がり秋の気配を強く感じ始めた滝野ですが、青少年山の家のかわの実広場で見ることのできる野外炊事を行う子どもたちの姿は、暑い夏も寒くなり始めた秋でも変わることがありません。

野外炊事の他にも、青少年山の家で行うことができるプログラムの中には「火」と関係するプログラムがいくつかあります。手をつなぎ、人々がひとつの輪となって炎を囲み、楽しい時間を過ごすことができるキャンプファイヤー。ろうそくの明かりの中、静かな雰囲気の中で行うキャンドルサービス。粘土を使って形を作り、窯の中で焼くことによって自分だけの作品を作る事のできる陶芸体験も火が生み出す熱が必要になります。

人が生活していく上で欠かせない存在である火は、光（明かり）や暖房（熱）、調理（焼く、煮る）などの役割を担っています。現代は技術の発展もありマッチやライターを使って簡単に着けることができますが、それらの道具がなかった頃はどうのようにして火をつけていたのでしょうか？

青少年山の家では、ライターやマッチがなかった頃の着火方法の一つである“摩擦熱”を利用して火種を作る「火おこし体験」を行うことができます。穴を開けた板の上に、舞割り式火おこし器を置いて軸を回し、その摩擦熱で火をつける方法です。気温や湿度、天候状況によって、回してすぐに火種ができる時もあれば、なかなかできない時もありますが、苦勞すればするほど煙が起きた時の驚きや、火種ができた時の感動はより大きいものになることでしょう。

昔の人たちは苦勞して火をおこし、守ってきたと言われていています。そんな火をおこすことの大変さや、おこした後の火を大切に思う心・ありがたさを感じる機会として。そして、火について学ぶ機会として、火おこし体験を行ってみてはいかがでしょうか？体験をとおして新しい気づきや発見があるかもしれませんね。



実施事業のご報告

■第2回陶芸教室 9月1日(日),9月8日(日)

散策で観察した樹木や葉っぱ、キノコをモチーフとした個性的な作品が並び、参加者も指導をしてくれたボランティアスタッフも満足した様子でした。



■幼保小連携事業「なかよしキャンプ②」 9月8日(日)

年長幼児と小学5年生が協力してカレーライス作りに挑戦しました。初めてマキ割りや料理をやった参加者もあり、みんなが貴重な体験をすることができました。



利用者アンケートより

○天候が悪く、プログラムの変更を余儀なくされることがありましたが、判断ギリギリまで私たちの計画が実施できるよう、最善を尽くしていただきました。私たちとしても気軽に声をかけさせていただける雰囲気はありがたかったです。スタッフの皆さんに感謝申し上げます。

⇒8月から9月上旬までは雨の日が多く、各団体の担当者の皆さまは大変だったかと思います。

そんな大変さを少しでも軽減できるよう、山の家スタッフがおりますので、判断に迷った場合などはお気軽にお声掛けください。

自然の 豆知識

「種を守る果実」

紫外線が動物にとっても植物にとっても有害なのは、紫外線が当たると活性酸素という物質を大量に発生させるからです。活性酸素は多くの病気の原因となり体の老化を促します。植物にとっても毒性を持ち、植物を枯らしてしまいます。この害を消してくれるのが、ビタミンCやビタミンAで果実の中に大量に含まれ、種を紫外線から守っています。私たちはその果実を食べて活性酸素を除去しています。植物が体を守るために作りだした物質を利用させてもらっているのです。

果実は種がまだ出来上がっていない時は、鳥などに食べられないように渋かったり毒性を持ったりして種を守っています。

種ができる頃には、毒性はなくなり、渋みも取れて甘くおいしそうな果実になります。

そして、鳥などに食べてもらい、そのついでに種を遠いところまで運んでもらうのです。

さらに素晴らしい仕組みが植物にはいっぱい備わっています。



発行者：札幌市青少年山の家
指定管理者（公財）さっぽろ青少年女性活動協会

〒005-0862 札幌市南区滝野 247 番地（国営滝野すずらん丘陵公園内）
電話 (011)591-0303 FAX(011)591-0394
ホームページ <http://www.sapporo-yamanoie.jp>